

回覧

# 地域再生 協議会だより

事務局 百合が丘 2 - 29 - 6 (百合が丘老人憩いの家) 59 - 9356 (火、金午前)

## 一色小校区福祉協議会発足

### 町と連携、課題解決へ



岸野会長

一色小学校区地域再生協議会地域福祉部会（岸野修部会長）は 3 月末の会合で地域包括ケアシステム構築などの地域福祉対策を進める「一色小校区福祉協議会」の設立を決めた。昨夏の地域福祉部会発足当初から新組織発足に向けた検討を続けており、町内での発足第 1 号。会長に岸野氏を選ぶなど 4 月から本格活動に入る予定で、域内の福祉団体、町・町社協などと連携し高齢化の進展に伴う課題整理や解決策検討に取り組む。

再生協地域福祉部会は地域包括ケアの体制整備、地域ぐるみの健康づくり対策を H28 年度の事業目標に掲げ、毎月 1 回のペースで会合を積み上げてきた。高齢者福祉の取り組みは行政施策との連携が欠かせないことから、当初から町福祉部門、町社協をメンバーに加えて検討。3 月末の第 10 回目の会合では、同協議会の規程を承認するとともに、役員人事についても決定した。(以下裏面に続く)

## プロデュース / 合唱指導に山内氏

新しく結成する「にのみややまゆり合唱団」の合唱指導を、オペラ演出などで活躍中の山内（やまのうち）みどりさんが

は同時に、11 月開催の音楽祭内定している。文化イベント振興公社の催しと一体的に展開する内さんを中心に準備が本格化する

山内さんは武蔵野音大声楽科 H26 年から二宮町の教育委員もウイーン国立音大に留学。ヨーロッパを含め、多くのオペラに出演し、オペラの演出家としても知名度がある。母校で後進の指導に当たるほか、東京都内や地元二宮町でも子供たち、音楽愛好家の合唱指導をしている。

「もともと音楽の盛んな地域で、一色小のコミュニティースクール計画も進んでいる。男女、世代を問わず、たくさんの音楽好きに集まってもらい、コミュニティー活動のシンボルになるような合唱団に育ってもらいたい」と語っている。



担当することになった。山内さんの企画・制作も手掛けることが部会が計画している音楽祭は県ことが決まっており、今後は山

講師で、二宮演奏家協会会員。務めている。武蔵野音大卒業後、

ウイーン国立音大に留学。ヨーロッパを含め、多くのオペラに出演し、オペラの演出家として

知名度がある。母校で後進の指導に当たるほか、東京都内や地元二宮町でも子供たち、音楽愛好家の合唱指導をしている。

(続き)

規程によると、「町行政、地域住民参加による地域福祉活動の情報交換と課題解決」を目的に掲げている。事業として町主導の「二宮町お互いさま推進協議会」(2月発足)や一色小学校区内の福祉関連団体と協力した取り組み、支え合い活動の推進などを上げている。最大の眼目は、国が推進する地域包括ケアシステム構築に向けた体制づくりだが、H29年度からは「通いの場」がスタートするため、これらを巡る情報交換なども大きなテーマになる見通し。

メンバーは百合が丘、緑が丘、一色の5地区から各3名ずつ代表者を出し、このほか町、町社協、地区内福祉事業者からの17名で構成。会長には岸野氏(百合が丘2)、副会長には石黒賢路氏(緑が丘)、新田積善氏(ゆりふく会長)、金子宜男氏(百合が丘地区社協部会長)、書記には宮田勉氏(一色緑が丘地区社協部会長)らを選んだ。



福祉協を決めた地域福祉部会(一色コミセン)

同協議会は今後、隔月で定例会、役員会を開催する。組織立ち上げ後の第1回会合は4月26日。また、今後の地域再生協議会との関係では、当分の間、同協議会が再生協議会地域福祉部会を兼ねる形で活動していく。

#### \*地域包括ケアシステム

地域に生活する高齢者の住まい・医療・介護・予防・生活支援を一体的に提供するためのケアシステム。厚生労働省が2025年をめどに実現を目指している。二宮町は町内自治会・地区社協・老人クラブなどが参画する協議体を、小学校区単位で設ける方針を打ち出している(「ニッポニカ」の解説など)

## 案内板、4カ所設置

地域課題検討部会・里山散策路分科会は3月末までに、地区内4カ所に案内板(写真)の設置を終えた。案内板には一色小学校区内の散策路や公園、文化史跡などをわかりやすく記したマップを載せる予定で、早ければH29年度下期から使用を開始する。



案内板の仕様は高さ180cm、幅134cmで、薄いボックスの中に掲示を貼れるようになっている。町の広報掲示板をひと回り小さくしたような体裁だ。設置場所は峠公園近接地(百合1)、団地中央葛川沿い(百合2)、一色防災コミセン、緑が丘中央公園の4カ所。

同分科会は現在、一色小学校区の散策路、ハイキングコースを次々に調べてウォークマップに載せるコースや道標設置個所の絞り込みを始めている。案内板設置はこれらの作業が終わる前に具体化したもので、この地区の散策路整備には欠かせない個所ばかりを選んだ。散策路の絞り込み、ウォークマップの制作を終えるまでは再生協議会関連のイベント紹介、広報掲示に使用する。